

地元後回しに批判

がれき
受け入れ
愛知県、市町村と会合

愛知県は10日、県内54市町村の廃棄物処理の担当職員を県庁に集め、震災がれきを受け入れる計画について説明した。地元への説明を後回しにして計画を進めようとする県の姿勢を批判、住民の不安を指摘する声が相次いだ。

県はトヨタ自動車田原工場（田原市）や中部電力碧南火力発電所（碧南市）、知多市にある最終処分場の計3カ所で最大100万トンを受け入れる方針で、施設建設のための環境調査などを始める意向。冒頭のみ出席した大村秀章知事は「県が主体となり、全力で取り組む」と受け入れに理解を求めた。

質疑では、田原市の担当者「まずは住民の気持ちを考えるべきだ。（計画発表は）順番が逆だ」と指摘。「計画ありきで強引に

進めているため、不安ばかりが増幅し、地元の理解は到底得られない」と厳しく批判した。碧南市の担当者も「具体的にどう住民の理解を得るのか。住民は不安

がっている」と話した。県は「（がれきに関する）報道が先行して説明が遅れた。各市と相談しながら理解を得たい」と答えるにとどまった。